

トヨコ通信

2015年7月号
ホームページ...http://www.sasada-toyoko.jp/
Eメール.....sanba@sasada-toyoko.jp

発行 : 日本共産党大垣市後援会
発行日 : 2015年7月1日 第158号
連絡先 : 大垣市室本町5-8
Tel 78-6865 Fax 73-8572

部
内
資
料

<笹田区域>
興文中・西中・西部中(宇
留生小を除く)
上石津全域



議
会
報
告

「戦争法案の慎重審議を求める請願」 大垣市議会で不採択

大垣市議会最終日の6月15日、「安全保障法案に対する慎重審議を求める意見書」の請願に対して、共産党、市民ネットワークは賛成しましたが、自民・公明・民主が反対で不採択になりました。

請願を審査した「建設環境委員会」では、自民ク岩井議員が「尖閣諸島等領土問題があるので集団的自衛権が必要」と発言して慎重審議を求めた請願に反対し、賛成少数で不採択になりました。

この「建設環境委員会」の不採択に対して笹田トヨ子議員は、本会議で反対討論を行いました。

「安保法案」今国会成立に 国民の8割が反対

安倍政権が提出した安全保障法案は、憲法審査会で違憲と指摘され、また国民世論においても、今国会で決めることに反対が8割をこえる状態になっているなか、慎重審議を求めた意見書は市民の思いを反映したものと思います。

建設環境委員会での岩井委員の発言は、尖閣諸島や竹島など周辺諸国との領土問題を理由に集団的自衛権は必要というものでしたが、これには岩井議員の認識と大きな違いがあります。

集団的自衛権は他国防衛、 領土問題は個別的自衛権で

たしかに日本は領土問題を抱えていますが、集団的自衛権で対応するのではなく、平和外交のもとで話し合いで問題解決するのが基本です。仮に武力的な介入があった場合でも個別的自衛権で対応できるものです。

集団的自衛権は、日本が他国から武力攻撃を受けていなくても同盟国の戦争に自衛隊が出ていって参戦できるようにするというものです。これは他国の戦争で自衛隊員を死なせてもいいのかが問われる問題です。

このようなことに対して多くの人々は不安を感じ慎重審議を求めているのに対し、耳をかさずに審議を押し進めるやり方は市民を無視しています。

それにもかかわらず請願を不採択した大垣市議会の決定には断固反対します。



荒崎校下でStop戦争法案を訴える笹田市議

戦争法案反対・平和・自由・いのちを守る もう黙っとれん 西濃アクションに400人



戦争法案反対の声が急速に広がっています。

7月2日、大垣駅北口広場で「もう黙っとれん、平和・自由・いのちを守るコンサート」が行われ、400人が集まりました。

ヒップホップやフォーク等の音楽の間に、若いお母さん達、高校生、元自衛隊員の家族、法律家、宗教者、西濃地域の市町議会議員が戦争法案に対するリレー

トークを行いました。

この中には、6月議会で戦争法案に対して慎重審議を求めた意見書を全会一致で出した海津市議会議員の皆さんや輪之内町議会議員の発言がありました。

国民の立場で真実を伝え続ける
しんぶん赤旗をお読みください。
日刊紙...3497円 日曜版...823円

議会報告

養老鉄道の存続問題について

(笹田トヨ子の一般質問)

存続に向けて大垣市長のリーダーシップを求める

公有民営方式を提案されている養老鉄道存続問題について、一般質問で取り上げました。

大垣市当局は、養老鉄道を存続する場合、多くの課題があるとして、以下の点を上げました。

- 人口減少・少子高齢化に伴う今後の乗降客の減少による経営悪化
- 鉄道施設等の維持管理コストの増大
- 運転士等の人材確保
- 沿線地域がどれだけ地域鉄道を利用してくれるか

そして、近鉄に協力要請を行なったが前向きな回答は得られなかったと、公有民営方式には慎重な姿勢でした。

しかし、養老鉄道が廃線ともなれば600万人の乗降客の足を奪い、代替交通としてバス転換しても「高コスト構造で輸送力・定時性を考慮すると鉄道以上の優位性は認められない」(報告書)というものです。

養老鉄道は西濃地域のインフラ(社会資源)であり、これを廃線にすることは教育や福祉など住民生活に直接影響し、地域経済にも大きなダメージを与え、地方創生と言われる中、地域を亡ぼすことになるのではと危惧します。超高齢・少子化の中、人口減少時代だからこそ、住民の交通権を保障していくための地域交通政策が必要で、国が責任をもって政策化し予算的措置を行うべきです。また養老鉄道は2県3市4町に渡り、広域性から見ても沿線自治体だけでなく岐阜県の果たす役割は重要です。以

上のことを考えるならば、西濃地域の中心的な位置にある大垣市がリーダーシップを発揮して県や国に対して働きかけるべきと、市長に養老鉄道存続のため全力を尽くすことを求めました。

(建設・経済・議会運営委員会報告)

養老鉄道問題は建設環境、経済産業、議会運営の各委員会でも審議されました。「大垣市民の利用が少ない」と一部の議員から消極論も出ましたが、経済委員会では「存続できればしたほうが良い」と、そのためには赤字や廃線時の負担も含めてどれだけ資金が必要か、9月までに試算をし、県と話をするなど現実的な意見が出されました。

養老鉄道は西濃地域のインフラ 住民参加で総合交通政策を

養老鉄道は市民の利用が少ないから手を引くといった次元の問題ではなく、地域住民の移動保障の問題であり、福祉・教育・観光・産業などの土台となるインフラ整備の問題です。

これから人口減少で高校再編が進む中、特色のある学校であれば、遠くからも人は集まるが、通学が便利かどうか大きな要素となります。また超高齢社会となり免許証を返上した人々の移動保障が待たなしの問題です。養老鉄道の問題も含め総合的な交通政策が求められます。

養老鉄道の存続のカギは住民参加による鉄道と周辺のバス路線などとの連携させた総合的な地域交通政策を策定していくことです。

盛況だった議会報告



6月21日、室本4公民館で議会報告会を行いました。今、大きく新聞で取り上げられている養老鉄道の存続問題や市民病院の院外処方についてお話ししました。出席者からは「養老鉄道が廃線となるとどのような影響があるのか」とか「ジェネリックと先発薬品の違いはなにか」といった質問や要望が出されました。

市民の声実現 駅南口広場に進入禁止の立札

大垣駅南口広場は度々駐車場と間違えて車が進入、危うく地下道に突っ込む直前で止まった事もあり。今は進入禁止の立て札が立ちました



大垣でも「ぞうれっしゃ」を走らせよう!

戦争が終わった後、生き延びた2頭のぞうを見るために、全国各地から「ぞうれっしゃ」で子どもたちが東山動物園に来ました。このお話、「ぞうれっしゃがやってきた」の合唱曲として歌い継がれてきました。この「ぞうれっしゃ」のお話は、戦後間もない時期に、子どもたちの願いを正面から受け止めた、その当時の人々の戦後民主主義が花開かせた実話です。

今年には戦後70年、平和を願って各地で「ぞうれっしゃ」が歌われています。この大垣でも「ぞうれっしゃ」を歌うとりくみが進んでいます。みなさんも参加しませんか?

この合唱曲を作曲した藤村記一郎さんが「ぞうれっしゃ」が生まれたお話と「ぞう5000プロジェクト」の取り組みをお話していただきます。是非、ご参加ください。

日時:7月7日(火)午後6時~7時
場所:どろんこ子どもクラブ

大垣市新田町1-7 大垣市民会館東よびかけ:
ぞう5000プロジェクトおおがき準備会

